

マレーシア・サバ大学の紹介

マレーシアサバ大学海洋研究所 准教授 望月秀郎

去る3月10～12日に第8回「Annual Seminar on Marine Science and Aquaculture」がボルネオ島コタキナバル市にあるGrand Borneo Hotelにおいて開催された。これはマレーシア・サバ大学海洋研究所と近畿大学水産学部とが協同で毎年1回行なっている海洋科学および養殖学に関する国際的なセミナーである。今年は「Sustainable Development and Management of Aquatic Resources」というテーマでアジア各国から百数十名の研究者が参加し、プレゼンテーションおよびポスターによる研究発表が行なわれた。筆者も「Suppressive Effect of Mushroom (*Grifoda frondosa*) Powder and Probiotics Treatment to *Vibrio harveyi* in the Larval Culture of *Litopenaeus vannamei* in a Closed Recirculation System」というタイトルでプレゼンテーションを行い、閉鎖循環システム内で飼育したホワイトエビ(最大養殖量のエビ)について飼育水に散布したプロバイオティクの効果および飼料中に配合した茸の乾燥粉末の効果をも成長、生残率および vibriosis に対する免疫力について話した。

筆者が勤務するボルネオ海洋研究所は、マレーシア・サバ大学のキャンパス内にある。当大学はマレーシアの国立大学で最も広いキャンパス(500 ha)を有する創立1994年の新しい大学であり、13学部に学生1万5千人と教職員2千人が勉学・勤務している。当研究所には25名(内17名が博士号取得者、3名が日本人)の研究員、36名の研究補助員および25名の事務職員が勤務しており、研究員は海洋科学および養殖学に関する18部門の分野(組織図参照)においてそれぞれの研究しながら、学生たちに講義と実習を行っている。また、研究所内には付属水族館があり、一般の人に有料で公開されている。ちなみに筆者は、エビ養殖について教えながら、研究所内に現在建設中のエビ孵化場(5月末に完成予定)に関するコンサルタントを兼務している。

【最終8ページにつづく】



▲ プレゼンテーション



▲ 大学の正門